



All Japan Road Race Championship 2022
RACE REPORT

SDG Honda Racing / SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.



■SDG Media Infomation

2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第6戦
 SUPERBIKE RACE in KYUSHU

大分県・オートポリス (1周=4.674km)

8月27日(土):公式予選 天候:晴れ コース:ドライ

8月28日(日):決勝 天候:晴れ コース:ドライ

観客動員数:5,700人(2日間合計)

JSB1000クラス #5 名越 哲平 SDG Honda Racing

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 欠場

決勝: 欠場

JSB1000クラス #28 榎戸 育寛 SDG Honda Racing

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 3番手 (タイム: 1分48秒600)

決勝: スタート出来ず

ST600クラス #33 國井 勇輝

マシン: Honda CBR600RR タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 11番手 (タイム: 1分54秒292)

決勝: 7位

ST600クラス #20 千田 俊輝

マシン: Honda CBR600RR タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 17番手 (タイム: 1分54秒967)

決勝: 15位

J-GP3クラス #9 小合 真士 (SDG Motor Sports Jr. Team)

マシン: Honda NSF250R タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 13番手 (タイム: 2分00秒646)

決勝: 12位

MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP

予選: 10番手 (タイム: 2分10秒765)

決勝: 11位 (インタークラス: 7位)

MFJ CUP JP250 国際クラス #27 石井 千優 (SDG N-PLAN Racing)

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP

予選: 2番手 (タイム: 2分09秒317)

決勝: 3位 (インタークラス: 2位)

1 Motegi

2 Suzuka

3 Autopolis

4 Sugo

5 Tsukuba

★ Suzuka 8H

★ ARRC R3

6 Autopolis

7 Okayama

8 Suzuka



SDG 榎戸育寛がJSB1000で快走を見せるも無念のレースキャンセル

全日本ロードレース選手権2022年シーズン後半戦のスタートとなるシリーズ第6戦が大分県・オートポリスで行われた。鈴鹿8耐を終え、翌週には事前公開テストが行われたが、不安定な天候に翻弄されることになった。



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

名越哲平が開幕前のテストで転倒し負傷した右ヒザの再手術を行うためシーズン後半戦を欠場。その代役として榎戸育寛がSDG Honda RacingからJSB1000仕様のHonda CBR1000RR-Rをライディングすることになった。榎戸は、シーズン前半戦はストック仕様でタイヤ開発を行って来ていたが、鈴鹿8耐でEWC仕様で長い時間乗る機会もあり、調子を上げてきていた。

今回のオートポリスもJSB1000仕様で走るのは初めてだったが、事前テストから好調だった。不安定な天候だったため、3日目の特別スポーツ走行も走れることになり、ここでトップタイムを記録していた。



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

レースウィークに入っても榎戸は好調をキープ。初日となった金曜日の走行では、ヤマハファクトリー、ヨシムラに続く4番手タイムをマーク。Honda勢では最上位につけていた。土曜日の公式予選でも3番手タイムをマークしJSB1000クラスで初めてフロントロウからスタートすることになっていた。さらに2番手のライダーが欠場することが決まり2番手グリッドに並ぶことになっていたのだが…。



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

日曜日の朝から体調を崩し、レースまでに、できる限りのことをしてグリッドに着いたものの、ウイルス性胃腸炎のため脱水症状もあり、レースディスタンスを走るには危険と判断。ウォーミングアップラップで最終的な判断をし、そのままバイトインし、レースをキャンセルすることになった。



ST600 #33 Yuki Kunii

ST600の國井勇輝と千田俊輝は、事前テストから、なかなかタイムが伸びずにいたが、レースウィークでは、走る度にタイムを上げ、予選は國井が11番手、千田が17番手につけていた。決勝日朝のウォームアップ走行で千田が3コーナーで転倒。身体は大丈夫だったが、マシンがダメージを受けてしまう。チームはレースまでに修復し、無事グリッドに着くことができていた。



ST600 #20 Toshiki Senda

スタート直後の1コーナーで2台が接触するアクシデントがあり赤旗が提示され、レースはリスタートとなる。周回数は10周に減算され、短期決戦のレースとなる。國井は、オープニングラップを10番手で終えると、徐々にポジションアップ。レース終盤には7番手に上がり、そのままゴール。一方、千田は、マシンに問題を抱えながらも集団の中で周回を重ね15位でゴールし貴重な1ポイントを獲得している。

J-GP3クラスの小合真士は、オートポリスの攻略に苦戦。決勝は、三つ巴の争いを制し12位でチェッカーフラッグを受けている。

MFJ CUP JP250は、木曜日から走行があり、赤間清がセッションごとにタイムを上げていく。公式予選では、自己ベストを更新するなど好調だったが、決勝ではセッティングを外してしまい不完全燃焼のレースとなってしまふ。前戦で初優勝を飾ったSDG N-PLAN Racingの石井千優は、今回も切れのある走りを見せ、2位争いを展開。総合3位でチェッカーフラッグを受け、国際クラスでは2位となり表彰台に上がった。



JP250 #27 Chihiro Ishii

■榎戸育寛コメント

「鈴鹿8耐に参戦させていただき、EWC仕様のマシンに多く乗る機会があり、すごくいい経験をさせてもらいました。シーズン後半戦は名越選手の代役としてJSB1000仕様のHonda CBR1000RR-Rで戦うことになり、とても光栄なことです。やり甲斐も感じていました。チームと共に事前テストからマシンセットを進め、いい手応えを感じていましたし、実際に公式予選までは順調に進んでいたのでも悔しい気持ちでいっぱい。体調管理を徹底して、残り2戦に挑みます」

■國井勇輝コメント

「今回も厳しいレースになりましたが、チームと共に着実にステップを踏むことができました。そのステップをもう1つ、2つ早く踏めるようにできれば、上位グループでレースができるはずです。早くも残り2戦になりましたが、次戦こそトップ争いを、またできるように、事前テストからしっかり組み立てていきたいです」

■千田俊輝コメント

「決勝日朝のウォームアップ走行で転倒してしまいチームにご迷惑をおかけしてしまい申し訳ありません。その影響でレース中に問題が出てしまい、早く自分で気付くことができればと反省しています。その中でポイントを獲得したことは、次のレースにつながるのだと思います。岡山ではトップ10に入れるようにチームと相談しながら走っていこうと思っています」

■赤間清コメント

「今回は木曜日から走行があり、公式予選までは、いい流れで進んでいて、自己ベストを更新できていました。しかし、決勝で欲をかってしまい、セッティングがよくない方向に行ってしまう悔しいレースになってしまいました。次戦は、一番いい状態でレースに挑めるようにマシンセットを進めていきます」



JP250 #71 Kiyoshi Akama



J-GP3 #9 Ogo Shinji